

飯田伊那

高遠「さくら祭り」スマホで入園OK

デジタルチケットQR読み取りで

伊那市は市内の高遠城址公園で春に開く「さくら祭り」で、今年もデジタルチケットを販売する。事前にスマートフォンで支払いを済ませてもらい、発券所の混雑を緩和する狙い。デジタルチケット購入者は昨年、入園時に紙のチケットに交換する必要があったが、今年はQRコードを読み取り機にかざすだけで入園できるようにする。

25日、市と地元住民、観光関係者らが市内で開いた「さくら祭り対策打ち合わせ会議」で説明。市は今年の祭りから、市が指定する「特定日」に限り個人の大人(高校生以上)の入園料を600円から1000円に値上げすることも改めて説明した。花見客の分散が狙いで、特定日は満開の時期の土日を選定している。

昨年は公園周辺でスマホを使う人が集中したことで、一帯の通信環境が悪化。出席者からは対策を求める声があり、市の担当者は「携帯電話会社に改善を要望している」とした。



多くの人でにぎわう高遠の「さくら祭り」(2025年4月)

球場で心肺停止の投手蘇生

看護師2人に
消防署感謝状

飯田

感謝状を受け取る小木曾さんと出羽沢さん(奥)



飯田市で野球の試合を観戦中、心肺停止状態になった男性(59)の蘇生措置をしたとして、飯田広域消防本部伊賀良消防署が25日、飯田市立病院の看護師、小木曾佑輔さん(27)と伊那神経科病院(伊那市)の看護師、出羽沢開さん(26)に感謝状を贈った。

2人は昨年11月1日、同市の県営飯田野球場で行われた飯田高校(飯田市)野球部のOB戦を一塁側スタンドで観戦。試合開始直後、投手の男性がマウンド上で突然あおむけに転倒した。小木曾さんは「遠くから見ても明らかに顔

が白く、心停止を考えた」と出羽沢さんと共に駆け付け、蘇生措置を行った。

2人は連携して胸骨圧迫を施し、球場に備えられた自動体外式除細動器(AED)を使って蘇生措置をした。8分後に救急隊が到着した際、男性は意識を取り戻し、会話ができた状態になっていた。

小木曾さんは「普段の仕事の知識が実際の現場で生きた。AEDのおかげも大きい」と強調。出羽沢さんは救命センターで働いていた経験を生かしたとし「看護師としては当たり前のこと。院内外問わず今後も落ち着いて行動できればよい」と話した。

「CO₂ゼロ」へ箕輪の施策検討

町宣言から4年余「未来会議」初会合

箕輪町は25日、「地球・環境・未来会議inみのわ」の初会合を地域交流センターのわで開いた。町が地球温暖化対策実行計画を作り、2050年までに二酸化炭素(CO₂)排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言して4年余。会議は町の施策を評価し、提言する。会議は町内の商工、農業関係などの代表に公募を加えた



町宣言から4年余「未来会議」初会合

賀哲哉さん(左)を選んだ。白鳥政徳町長はあいさつで「次のステップへ、レベルを上げていきたい」と述べた。

具体的な内容は、今後設ける3分科会で話し合いを深める。このうち「気候変動に備える分科会」は豪雨による土砂災害や、暑さによる健康や農作物への被害など気候変動による影響への対策を検討。「気候変動適応計画」策定を

「地球・環境・未来会議inみのわ」の初会合で発言する有賀委員長(左)



目指す。メンバーには有識者に加え、町民や信州大の学生の参加も募る。

この他、農地に太陽光発電設備を設けて営農と発電を両立させるソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)を検討する分科会と、住宅や事業

精油を台座に垂らしてビノキの香りを楽しむ

も扱っている。

「師匠に「うまくやれ」としか 場は大きな笑いに包まれた。」